

参加者	シリ丹バレーキックオフミーティング参加者など（若手事業家）	人数	11人
主な意見			
<p><b>(移住者の受け皿整備の必要性) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波は移住したくてもすぐに住戸が売れてしまう。アパートの建築が進んでいるが、年配の人が大きな家を手放してアパートに住んでいる状況。IT人材など、ターゲットを決めて3～5年間安く住める県営住宅を整備してはどうか。</li> </ul> <p><b>(醸造職人を守る保障制度の必要性) C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・醸造職人は季節労働。冬しか稼げない。職人を守るには保障制度の充実などが必要。</li> </ul> <p><b>(学びにおける「楽しむ」を評価) A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリス人は英単語をイラストで楽しく覚える。子供が楽しんでいるということの評価の対象とすべき。</li> <li>・子供にとって選べることが大事。例えば子供に好きな色、大きさの画用紙を選べるようにすることなどで、子供の意識が全然違ってくる。</li> </ul> <p><b>(五国の多様性が武器となる多拠点生活) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多拠点で生活しているが、地域が違くと風土が違う。五国の多様性を感じる。</li> </ul> <p><b>(大学と地域との連携の重要性) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と地域との連携（神戸大学）で地域に入りやすくなっている。夏休みにプライベートでカフェに來たりする。</li> </ul> <p><b>(「マーケットがしやすい県」になるための規制緩和) C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所の規制を緩和し「マーケットがしやすい県」となれば遠方からでも選ばれる。</li> </ul> <p><b>(バイオマス発電に本気で取り組む) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス発電に本気で取り組めないか。建材とチップと山をデータ化して稼げることを示し、山に入る人を増やしていかないといけない。</li> </ul>			

参加者	丹波青年会議所	人数	17人
主な意見			
<p><b>(丹波は“しっかり”田舎) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三田から丹波に引っ越す予定だが、三田は中途半端な田舎で、丹波は“しっかり”田舎である。このしっかり田舎である丹波の良さを残して発展させたい。</li> <li>・外から見れば、田舎の広い庭でゆったり過ごすことに大きな価値があり、そのような生活が丹波ではできる。</li> </ul> <p><b>(オンラインでは提供できない丹波のものづくり) C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナでオンラインが広がりつつあるが、リアルでしか提供できないものがある。例えば、丹波産のまつたけは丹波でとれるから意味がある。丹波でしかできないものづくりを考えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>(丹波の人はあったかい。だから住む) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に人が移動できるようになれば、住む場所を選ぶ基準は「どこ」ではなく「誰と」住むかが重要になる。人の魅力に惹かれる地域。丹波の人はあったかい。困ったら助けてくれる地域。だから住みたいと思ってもらえる地域になる必要がある。</li> </ul> <p><b>(旧町の強みをのばすエリアマネジメントが必要) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、おばあちゃんの里がある春日は観光を強化するなど、丹波市一律でバランスをとるのではなく、旧町の強みを伸ばすエリアマネジメントが必要である。</li> </ul>			

参加者	農業経営士・女性農業士・青年農業士	人数	16人
<b>主な意見</b>			
<p><b>(鳥獣害対策) B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣害被害が多く対策に労力がかかる。猪に掘り起こされ、自動草刈り機は通れない。</li> </ul> <p><b>(後継者問題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・儲からないので農家の息子は農業をせず、都会から新規就農者を迎えている。 C</li> <li>・空き家を行政が管理、把握して新規就農者へ仲介して欲しい。 B</li> </ul> <p><b>(丹波地域の特色)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波地域の売りは四季折々。この環境の残す、里山を残す努力をするべき。 B</li> <li>・他地域がデジタルやスマートで進化するなら丹波は「直に触れあえる場」としていく。 B</li> </ul> <p><b>(高齢化)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が高齢化し、機械が壊れて放棄。病院に通うために転居。一人では地域を支えきれない。 D</li> <li>・地域の8割の農地を世話。名義が様々で合併するのも困難。 B</li> </ul> <p><b>(兼業農家の支援)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波は兼業農家が多い。兵庫の特色として支援して欲しい。 C</li> <li>・2地域居住を進め、週末だけ農業をしに丹波へ。新規就農者へ支援を。 B</li> </ul> <p><b>(農地を守る)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ整備が必要。水利権も併せて整備する必要がある。 C</li> <li>・所有権と耕作権では所有権の方が強い。地権者が環境の責任を果たすなどすると耕作権も見直されるのではないかと。 B</li> </ul>			

参加者	丹波篠山青年会議所	人数	11人
<b>主な意見</b>			
<p><b>(丹波地域を先進地に)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転やドローン配達などの技術が進歩すると田舎のデメリットがなくなって、都会に住むメリットがなくなる。そのターニングポイントを見極めることが重要。 A</li> <li>・ギガスクール事業が始まり、丹波篠山市にもパソコンが配備されたが、Wifi環境が悪く、同時につなぐことができない。いち早く環境を整備し、山間部のモデル地域として先進地になりたい。山間部もICTとテクノロジーで大きく変化できる。 A</li> </ul> <p><b>(地元の情報発信は地元が担う) A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波篠山市内にはICTの企業が少なく、情報発信が十分にできない。地域のことは地域の人からということで個人の発信能力を高め、個人個人で情報発信していくべき。</li> </ul> <p><b>(祭りによる地域づくり)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りはメスを入れてはいけないとされてきたが、行政がまつりを中心にまちづくりをしてはどうか。 D</li> </ul> <p><b>(郵便局の存在価値)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局を過疎地、限界集落の最後のインフラとして活用してもらいたい。 -</li> </ul> <p><b>(自治会で福利厚生を) A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会活動の週1回の清掃や集まりは共働き世帯に負担。負担ばかりでなく、福利厚生的な要素を持たすなど入りたいと思える自治会に。</li> </ul> <p><b>(生産者が生産できる環境に) C</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業も6次産業化、多角産業が美とされているが、新規就農者はまず生産ができてそれで生活できるようになるべき。機械のレンタルや助成などで支援して欲しい。</li> <li>・焼き物業界は現在後継者不足もない。ただ、ある程度の年齢になると様々な役職がついてきて、そちらに手を取られすぎる。本来生産者としていいもの作りたいがそうもいかない。</li> </ul> <p><b>(ペーパーレス化が進まない)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役所へ出す書類が減らない。また、保存年限を超えると廃棄されるため、資料として残っていない。PDF化、データ化するなどしてペーパーレスを進めて欲しい。 A</li> </ul>			

参加者	子育て中の 20～40 代	人数	13 人
主な意見			
<p>(幼児無償化からの除外が選択肢を狭めている) —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認可外の幼稚園（森のようちえん）に通っている。認可外だけ無償化の対象にならないのはおかしい。園の方針に魅力を感じて入れたくても、料金が足枷になっている。</li> </ul> <p>(母親が安心して子育てできることが一番) <b>D</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あったかい丹波地域であって欲しい。ママが安心して子育てできることが一番。</li> <li>・社会の負担を全て母親が担っている。楽しみたくても楽しめない。</li> <li>・父親の育児参画も必要。残業をなくす声かけなど、企業も取り組む必要がある。</li> <li>・産まれにくい体質の人でも産んでもいいという機運が必要。</li> </ul> <p>(多世代の複合の福祉施設ができないか) <b>D</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園に預け、同じ建物、同じメンバーで過ごすのはもったいない。多世代の複合の福祉施設があればいいと思う。例えばデイケアで託児し、ママたちも働くなど。学童も来てもいいですよとなればいい。</li> </ul> <p>(家庭教育が重要) <b>D</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住施策を考える前にそもそも外に出て行くことを解消しないといけない。家庭が変わらないといけない。そのためには家庭教育が重要となる。</li> <li>・意見を聞いてくれない大人たち（親世代）を助けたいと思わない。</li> </ul> <p>(自然の良さを残しつつ、都会の良さである選択肢と情報が得られれば) <b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎ならではの子育てのしづらさがある。田舎は自然がある、都会は情報の多さ、選択肢の多さがある。自然の良さ残しつつ、選択肢と情報の速さが必要。</li> </ul> <p>(自然をそのまま地域が子どもを育てることを残してほしい) <b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然をそのまま、地域とのつきあいも残して。地域で子供を育てるということを残してほしい。</li> </ul>			

「自立」 = A    「交流」 = B    「元気」 = C    「絆」 = D    「安全安心」 = E